広報 はちまんたい
2010.5.20
No.104

CONTENTS

●目次
02 ZOOM UP 人
山本拓実さん
03 Front Topics
八幡平市民歌歌詞決まる
04 特集　市議会議員選挙
08 市長とのフリートーク
３月25日市ＰＴＡ連絡協議会
09 春の叙勲市内から３人が受章
各課からのHOT LINE
埋蔵文化財現地確認にご協力を
人権擁護委員に大森貞子さん委嘱
10 国民健康保険税が変わります
12 話題ピックアップ
八幡平山開き／安代漆工技術センター入所式　ほか
16 福祉ネットワーク
保健のひろば　介護のココロ
環境のみらい
17 まちの企業探検隊
子ども手当スタート
18 博物館だより　図書館だより
19 よろこび　おくやみ
広報クイズ
20 暮らしの情報カレンダー
22 INFORMATION
24 八幡平いにしえの宝
木造地蔵菩薩立像

今月の表紙

ＪＲ東日本盛岡地区指導センター主催の鉄道安全教室は４月15日、平舘小学校（松村秀二校長、児童131人）で行われ、１、２年生38人がトレインジャーなどのキャラクターと手をつなぎ、「右、左、もう一度右」と実際に正しい踏切の渡り方を学びました。

Zoom Up 人

山本　拓実 さん

やまもと・たくみ・西根中学校３年・下町三区

◎profile

1995年八幡平市生まれ。６歳でスキーを始める。昨シーズンはジュニア五輪出場、東北中学校スキー大会大回転６位など入賞多数。好きな選手は大越龍之介選手（東海大）。尊敬する人は新里優子先生（西根中）。西根中学校では生徒会長を務める。「何事も前向きで、やると決めたら全力で取り組む。中途半端は嫌いな性格」と自己分析。167㌢、60㌔、血液型Ｂ型のしし座、14歳。

集中し難コースを攻略
来季に弾みつく優勝

絶対に優勝する―。自信に満ち溢れていた。

４月３、４日に下倉スキー場で行われた第34回県中学校スキーアルペン競技記録会。難度の高いポールセットを落ち着いて攻略し、２本とも最高タイムをマークして大回転を制した。

この優勝には伏線があった。２月に本市で行われた全国中学校スキー大会に出場。全国トップレベルの選手の意識の違いに衝撃を受けた。アルペン競技はわずかなミスがタイムを左右する。考えながら練習に取り組み、一本一本の滑りを大事にするようになった。

スキー競技は現在オフシーズン。夏はサッカー部に所属しながらも、イメージを見失わないよう、自分の滑りと目指す滑りのビデオを見て研究する努力を欠かさない。

「中学校生活最後の年。目標は全国入賞」と語る山本君。天性の運動センスに努力が加われば、来シーズン全国の舞台でその才能が開花することだろう。

Front Topics

八幡平市民歌歌詞決まる

市は、９月で合併５周年の節目を迎えるに当たり、合併した市民の一体感の醸成を図るだけではなく、市を全国へアピールするために、市民歌の制定を開始しました。「歌詞」を募集したところ、全国から133件の応募があり、選考の結果、東京都世田谷区の保岡直樹さんの歌詞が選ばれました。

八幡平市民歌

作詞　保岡　直樹

一、若い息吹に　満ちあふれ
農と輝の　夢よぶ大地
ながれ清らな　川がある
いのち育む　土がある
四季の恵みの　幸うけて
ああ　あしたを拓く　八幡平市

二、花はリンドウ　咲き薫り
ふれあう人の和　明るい笑顔
みどり豊かな　山がある
歴史ささやく　路がある
心ひとつに　肩よせて
ああ　しあわせ築く　八幡平市

三、伸びるアカマツ　たくましく
飛翔くヤマドリ　耀く空へ
ここに理想の　街がある
未来を彩る　虹がある
力あわせて　躍進の
ああ　希望に燃える　八幡平市

9月に合併５周年の節目を迎えるに当たり、市では、市民の皆さんが郷土愛をはぐくみ、市の一体感を感じることができる「八幡平市民歌」を制定することにしました。

制定に当たり、大学教授や演奏家などからなる八幡平市民歌制定検討委員会（赤澤義昭委員長、委員８人）を昨年12月２日発足しました。

検討委員会では、歌詞を全国公募することとし、子どもから大人まで世代を超えて歌い継がれるような歌詞を募集したところ、９歳から90歳まで県内38件（うち市内15件）、県外95件、計１３３件の応募がありました。

審査の結果、保岡直樹さん(39)の歌詞を採用することが、３月15日開催の第３回検討委員会で決定。選考理由については、「市民憲章の精神に沿っている」「歴史に目を向けながら未来志向」「老若男女どの世代でも親しめる」などが同委員会委員から挙げられました。

作詞者の表彰式は３月30日、市役所で行われ、田村市長から保岡さんに賞状と歌詞が書かれた安比塗の記念盾などが贈られました。

今後、専門家が曲を付けて、11月３日開催の市民憲章推進大会で披露する予定です。

田村市長から歌詞が書かれた安比塗の記念盾を受け取る保岡直樹さん（右）

◆作詞者・作品への想い

市民憲章を何度も読み込み、心ひとつに未来へ躍進する八幡平市を力強く表現しました。

「農と輝の大地」というキャッチフレーズを作品に活かし、明るくあたたかく、元気の出る歌を心掛けました。

「リンドウ（市の花）」、「ヤマドリ（市の鳥）」、「アカマツ（市の木）」を歌詞に織り込み、街の風景が浮かぶ工夫をしています。

広く、永く、八幡平市の皆さまに愛される市民歌になればと願っています。